

# 第12回 Blues system②

前回の基本的なBlues systemを踏まえ、12-bar blues chord progressionを軸とした応用と発展を学んでいきます。特に、ブルースコードの応用は通常の音楽システムにもそのアイデアが流用できるとても魅力的なサウンドになります。ドミナントコードを中心としたブルースコードは最終的には全コードクオリティで用いることができます。この時全コードルート全コードファンクションが圧倒的なアイテムとなるのは言うまでもありません。

## 12-bar blues chord progressionの応用

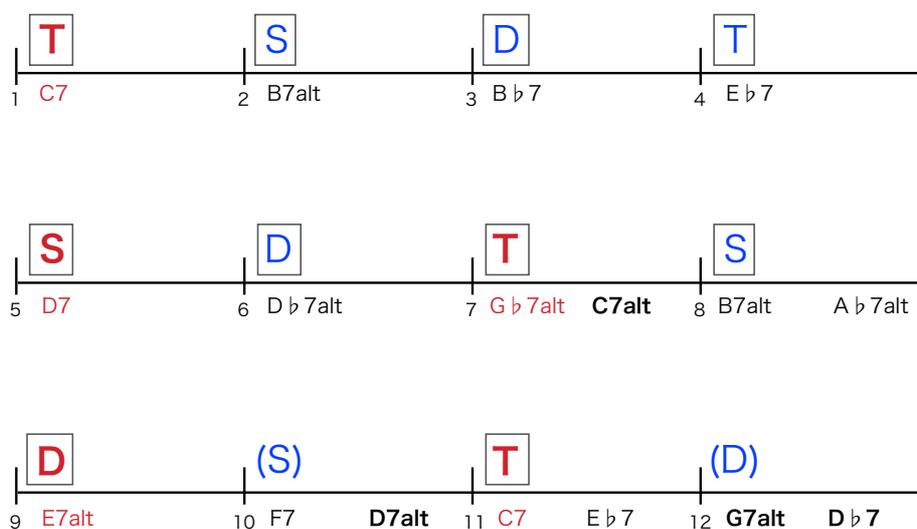
### 基本ルール

- 1小節目・・・Tonic
- 5小節目・・・Subdominant
- 7小節目・・・Tonic
- 9小節目・・・Dominant
- 11小節目・・・Tonic

これらは指定箇所の冒頭を踏まえればよく、その間については任意にファンクションを進行させて構いません。例えば、1小節ずつファンクションを進ませると9小節までは綺麗にファンクションが並んでいくことがわかります。最後の4小節でResistiveな要素が加わることでBluesらしさが増幅されています。

### 【12Etude-1】

応用 12-bar blues chord progression



指定箇所の冒頭のみコードファンクションを一致させれば良い

太字はaltとLydを通常とは逆の使い方をしているところ

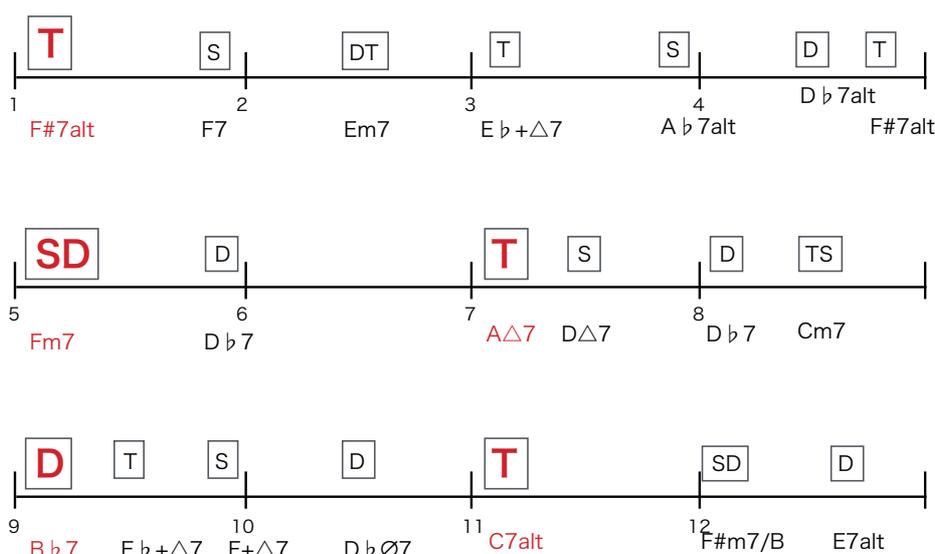
ドミナントコードのテンション付加は任意にできます。例えばI7ではMixo系を当てると(9,13)となり共にBlues scaleの音です。。altではテンションの(#9)がブルーノートとなり、どちらも捨てがたい選択となります。

## 12-bar blues chord progressionの発展

ブルースコードを更に発展させましょう。ドミナントコード以外のコードクオリティを積極的に取り入れます。この例はかなり攻撃的です。特に $\Delta 7$ コードはBluesの対極に位置するコードで注意が必要ですが、サウンドに工夫を凝らすと一層刺激的になります。Blues systemではその構造がMajor scale systemと根本が異なるためにReal minor scale 系のコードを積極的に用いてもサウンドのTonalityは維持されます。Blues systemにおける調性の維持はBlues scaleそのものであることを理解してください。

### 【12Etude-2】

#### 発展 12-bar blues chord progression



指定箇所の冒頭以外は自由に進行している。コードクオリティもドミナントコード以外のものを自由选择出来る。

この例ではファンクションが小節を分割して用いられています。前例でも同じですが、指定箇所のファンクションは一瞬鳴らせばOKです。+ $\Delta 7$ や $\emptyset 7$ コードは中々に魅力的です。

自宅でDTM・音楽制作を学習  
在宅受講コース

ミュージックプランツアカデミーの授業を  
パソコン、スマホでいつでも受けられます



詳しくはこちらをクリック

## [12Etude-1]

$C_7^{(9\ 13)}$        $B_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $B^{\flat}_7^{(9\ 13)}$        $E^{\flat}_7^{(9\ 13)}$

$D_7^{(9\ 13)}$        $D^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $G^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $C_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $B_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $A^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$

$E^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $F_7^{(9\ 13)}$        $D_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $C_7^{(9\ 13)}$        $E^{\flat}_7^{(9\ 13)}$        $G_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $D^{\flat}_7^{(9\ 13)}$

## [12Etude-2]

$F^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $F_7^{(9\ 13)}$        $E_{m7}^{(9)}$        $E^{\flat}_7^{(9)\ \Delta 7}$        $A^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $D^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $F^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$

$F_{m7}^{(9)}$        $D^{\flat}_7^{(9\ 13)}$        $A_{\Delta 7}^{(9)}$        $D^{\flat}_{\Delta 7}^{(9\ 13)}$        $D^{\flat}_7^{(9\ 13)}$        $C_{m7}^{(9)}$

$B^{\flat}_7^{(9\ 13)}$        $E^{\flat}_7^{(9)\ \Delta 7}$        $F^{\flat}_7^{(9)\ \Delta 7}$        $D_{\Delta 7}^{(9)}$        $C_7^{(\#9\ \flat 13)}$        $F^{\flat}_{m7}/B$        $E^{\flat}_7^{(\#9\ \flat 13)}$

## Blues feelingのコントロール→POPsへの流入

Blues systemを満たしたサウンドはBlues feelingが極めて強く、通常のPOPsやRockとはそのままでは融合が難しいかもしれません。Blues systemを満たしている各要素を部分的に取り入れることで濃度をコントロールすることができます。

### Blue noteのみを混ぜる

通常の音楽システムでメロディにBlue noteのみを混ぜることでBlues feelingを持ち込みます。この時いちばん重要なBlue noteは強い「III ♭」です。

#### [12Etude-3]

Musical notation for 12Etude-3, showing a melodic line in 4/4 time. The notation includes chords: F $\Delta$ 7, E+7, Am7, D7, Dm7, G7, C $\Delta$ 7, and A7<sup>alt</sup>. Blue notes are highlighted in blue.

### 同主調転調を持ち込む

POPsへBlue noteを持ち込む最も合理的な方法です。：E ♭のScottish scaleはC\_Blue note pentatonic scaleと一致します。コード&スケールを維持しながら効果的にBlue noteを流入できます。

#### [12Etude-4]

Musical notation for 12Etude-4, showing two melodic lines in 4/4 time. The top line is in C major and the bottom line is in E ♭ major. Chords for the top line are: Dm7, G7, C $\Delta$ 7, Am7, Dm7, G7, C $\Delta$ 7, G7<sup>alt</sup>. Chords for the bottom line are: Fm7, B $\flat$ 7, E $\flat$  $\Delta$ 7, Cm7, A $\flat$  $\Delta$ 7, Fm7/B $\flat$ , Dm7/G. Blue notes are highlighted in blue.

## Hybridスケール

：E♭のScottish scaleはC\_Blue note pentatonic scaleと一致することから：Cに：E♭を流入させることがとても多くあります。

C\_Blue note pentatonic scale

E♭\_Scottish scale



メロディの基本は：CのScottish scaleです。そして、時々において：E♭を混ぜることは自然に：CのBluesスケールを持ち込むこととなります。

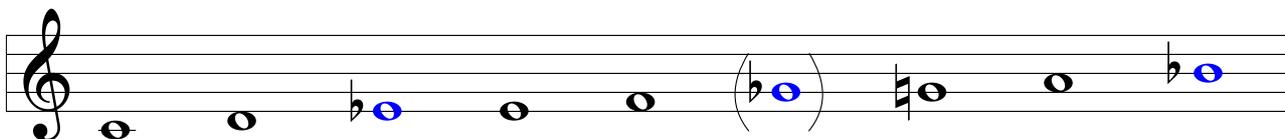
C\_Scottish scale

C\_Blue note pentatonic scale



通常状態でもBlues状態でも共にこの二つのスケールは融合して使われることが多く、メロディライティングの大きな可能性を秘めています。世界的な多くの著名なミュージシャンがメロディライティングにおいてこの二つのスケールに帰結している事実は是非とも確認してください。そしてこの二つのスケールを融合させたものを「Hybrid-scale」といいます。

C\_Hybrid scale



ポピュラー音楽における一つの完成された真理といえるでしょう。